

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 8 日作成)

|                     |   |             |
|---------------------|---|-------------|
| 委員会名                | 建築教育制度小委員会  | 主 査 名：吉田 勝行 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会) | 建築教育委員会   | 委員長名：西谷 章   |
| 設置 期 間              | 平成15年4月 ～ 平成18年3月   |             |
| 設置 目 的<br>各年度活動計画   | 我国の建築教育制度の現状を明らかにすると共に、国際的な建築家および建築技術者の資格制度とそれに対応する教育制度を明らかにし、我国の今後の建築教育制度の方向性を明確化する。   |             |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))  | 吉田勝行(大阪大学)、上利益弘(アガリ・アソシエイツ)、阿部浩和(大阪大学)、稲葉武司(建築と子供たちネットワーク)、加藤道夫(東京大学)、河本順子(ARC)、斎藤公男(日本大学)、櫻井一弥(東北大学)、島田良一(東京都立大学)、白崎敬治(榊アーキドリーム)、瀬口哲夫(名古屋市立大学大学院)、高橋純一(小山工業高等専門学校)、中島正愛(京都大学)、野崎勉(愛知工業専門学校)、山名善之(東京理科大学) |             |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)  | WG 名称：教育と資格制度ワーキング<br>目 的：アンケート調査案の企画と実施、および収集結果の下整理を担当すると共に、最終報告書の編集を担当する。   |             |
| 2004 年度予算           | 100,000 円   |             |

| 項 目                   | 自己評価  |
|-----------------------|---|
| 委員会活動状況<br>(開催日・参加人数) | 第1回 (4月19日：e-mail 開催により全員参加)<br>第2回 (6月14日：e-mail 開催により全員参加)<br>第3回 (3月 8日：e-mail 開催により全員参加)  |
| 得られた成果                | <p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築教育研究懇談会『グローバル化時代に通用する建築教育の条件を考える～6年制教育プログラムと倫理教育の要件～』の企画と北海道大会での実施を担当すると共に、資料集「グローバル化時代に通用する建築教育の条件を考える～6年制教育プログラムと倫理教育の要件～」を発行し、“フォレンジック・デザイン”を大学院教育に導入すべき概念の一つとして広く紹介すると共に、当該資料集を完売した。</li> <li>2. 第5回建築教育シンポジウム『社会に出てからの一般教育と専門教育—先進的な取組みを通して—』の企画と実施および第5回建築教育シンポジウム論文集編集の中核を担った。</li> <li>3. 建築教育制度に関わるポータルサイト<br/><a href="http://www-dg.setc.wani.osaka-u.ac.jp/aij/shikaku/linksyu/aij.htm">http://www-dg.setc.wani.osaka-u.ac.jp/aij/shikaku/linksyu/aij.htm</a><br/>を継続維持管理し、建築教育制度に興味を持つ研究者、実務家に便宜供与した。</li> </ol> |
| 目標の達成度                | <p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>本小委員会は、本年度がその設置第2年目に相当し、各建築教育制度の実態と資格制度との関わりを明らかにすることおよび建築教育制度に関わるポータルサイトの維持が当初の計画で、建築教育研究懇談会および第5回建築教育シンポジウムの開催により、主として大学院課程の建築教育のあり方を具体的に明らかにし、当初の計画の80%を達成した。</p>   |
| その他評価すべき事項            | 第5回建築教育シンポジウムの開催に関し、投稿論文10編の内5編は本小委員会関係で、建築教育分野における論文作成の促進に貢献した。  |